

自己評価および外部評価結果(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時にスタッフが理念を唱和し理念を意識しながら実践に繋げている。	個々の支援についてカンファレンスで検討する際に『あきらめから希望へ』という意識が職員の話の中から自然に生まれ、支援に繋がっている。出来なかったことができるようになることで職員の励みにもなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として毎月二回近隣の遊歩道の清掃をしている。町内の行事には出来る限り参加する様に心掛けている。	月2回、近くの遊歩道の清掃を行うなど、地域に貢献できることを工夫している。協力医療機関での秋祭りに出店したり、クリスマス会に学童の子ども達が参加してくれたりし、地域との交流を設けている。	今年度、子どもとの触れ合いが増えています。今後もボランティアや〇〇教室の受け入れなど、利用者がワクワクするような取り組みが増える事を期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の場を利用して地域貢献として実践出来る事を検討していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内で行って行事内容やスタッフが参加した内部、外部研修の内容等報告。家族から地域から見た目で意見を伺い施設への理解とより充実したサービスを提供出来る様に取り組んでいる。	2ヶ月に1回、小規模多機能サービスと合同で実施している。地域の方の参加も多く、情報交換や防災時の連携、苦情などへの意見交換を行い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に参加して頂き事業所での取り組みについて伝えている。	法改正等で分からない事があれば、随時電話にて確認をしている。運営推進会議の案内を出しているが、今の所参加はない。地域包括支援センターが主催しているカフェの案内があり、参加を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会主催で勉強会を開催、具体的な身体拘束を含め事例等を使用し身体拘束廃止に向けての取り組み方などを勉強している。	身体拘束とは何かという所から始まり、言葉による拘束なども話し合っている。新聞などで関係する記事があれば職員に情報提供し、改めて意識を促している。委員会による勉強会も開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に行っている身体拘束委員会主催の勉強会に虐待防止を取り入れスタッフに周知また心理的虐待について学ぶ機会を持ち防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や自立支援事業について必要に応じて対応している。制度について学ぶ研修があれば参加する様に心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は事前に契約書、重要事項説明書等お渡しし内容が十分読める環境を作っている。またその内容について再度説明する時間を作り不安や疑問点など伺い、理解納得を図っている。解約改定の際は文章または口頭にて連絡を行い同意書にて確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等への年に一度の満足度アンケートを実施し、利用者の意見を職員にも周知し運営に反映させている。	面会の際、直接家族と意見交換をしている。満足度アンケートでは外出を増やしてほしいなど希望があり、反映している。新聞発行も開始し、できるだけ写真を載せ、利用者の生活が見えるよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングの際は個人の意見や考えを遠慮せず引き出せるように働きかけている。	各ユニットの管理者が日常業務の中で職員の意見や思いをさりげなく聞くようにしている。職員の提案により椅子を手すり付に変更するなど、できることは反映している。年2回各自で自己評価を行い、振り返りをもっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康診断を実施し、スタッフの健康維持に役立てている。勤務形態は可能な限りそえるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設立し委員会メンバー中心に外部研修の案内、参加の呼びかけ等を行っている。また内部研修に際しても研修委員会中心に身体拘束廃止、感染症対策、安全管理、接遇と毎月勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学や交流などのより充実したサービスが行えるよう検討していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者について相談のあった時にはその内容について記録を残しその後も状況を確認している。入居前には事前面接を行い本人について理解する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族を連絡を取り、話を伺いながら相談に応じる様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のあった時には、相談者の状況を確認し、必要ならば他のサービス利用へ対応を考えていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とのコミュニケーションをはかり、本人の思いや希望を汲む様に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と入居者が交流を気兼ねなく出来る様配慮している。面会に来られた時など近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の体験や経験について話を聞く機会を持ち、家族との外泊、外出についても支援している。	入浴時間など1対1で対応できる時間に利用者本人と昔の話や思い出を聞き、日常の中でふとしたときに話題にすることで、本人の生き生きとした表情を導きだしている。季節になると自宅にある金柑やお花を持って帰るなど、昔からの習慣を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮した席を考えたり、入浴洗面、トイレなどでトラブルのないよう順番を考えている。また洗濯物を協力し合ってたんでくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、面会の希望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案前に各個人と面談する時間を設け、本人の希望や意向を聞いている。その内容をケアプラン立案時に反映させている。	日常の関わりの中で本人の表情や行動をみて、思いやしたいことなど把握し、対応している。ケアプラン作成時には本人と1対1で話をする時間を設け、改めて思いを聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折に触れ本人や家族から今までの暮らしぶりを把握する機会を持っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで入居者の情報を共有し、日々様子を記録して把握している。連絡ノートを作り細かい情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い本人の状態に合わせ、必要に応じた介護計画の見直しを行っている。	6ヶ月に1回、ケアプランの見直しをしている。カンファレンス前にケアチェック表にて気になる事や現状について職員が書き込むことで、検討課題が明確になり、会議がスムーズにできている。ケアプランに関する事は青色で記録するなど、職員への意識化を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄表や健康チェック表を利用して、日々の体調の把握に努め、ケアに反映させている。自分以外が記入した介護記録にも目を通し何が良かったかを共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人に出来る手仕事をお願いしたり季節の行事を通して色々なサービスを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来て頂き楽しく過ごせるよう支援する。買い物の際には行きたいお店に行き援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を取り、必要な時は総合病院への受診を行っている。	入居時に本人や家族と相談し、かかりつけ医を決めている。協力医療機関より2週間に1回、往診がある。週1回、歯科衛生士の訪問があり、口腔ケアなど実施、注意点など職員へ指導もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自施設の看護職員に相談したり、かかりつけ医の看護師に電話にて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的にスタッフが訪問し、入院先の看護師、ソーシャルワーカーと本人の現状等、状況交換や退院時期についてや退院後の事についての相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い意思確認書を作成し、家族の思いや本人の様子を見ながら随時対応している。	入居時に家族に終末期についてアンケートを手渡し、一度考えてもらうようにしている。主治医が終末期対応の必要を判断した時は家族を呼び、話し合いを実施し、方針を決定している。医師の協力も大きく、看取り支援に積極的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応を定期的に行い、発生時にはその都度対応が適切であったか検討し、その後の対応に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全管理委員会を設置。委員会中心に入居者も含めた避難訓練を年に二回開催。その前後には災害時緊急時対応についての勉強会と避難訓練実施後の反省会を行っている。避難訓練を実施する時期に合わせて運営推進会議にて地域の方々の協力を呼び掛けている。	年2回避難訓練を実施している。避難経路や消火器の確認など毎回行っている。緊急連絡網による連絡シュミレーションを行った中で課題が見つかり、改善に向けて検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇委員会を設置しており、資料の配布や勉強会の実施などスキルアップについて取り組んでいる。プライバシーに関わる話しは1対1で居室するなど、日常の中で配慮を忘れないようにしている。	家族や利用者との話し合いの上、○〇ちゃん等の呼びかけも採用しているとお聞きしましたが、第三者が耳にすると違和感がある呼びかけになります。接遇委員会など皆で再検討を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情などに気をつけながらその都度本人の希望を尋ね自己決定のサポートを行える様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホールと居室と自由に行き来して頂き、レクリエーションを行う時は強制するのではなく本人の意思を確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れ、汚れ等があると整える。外出時にはTPOに合わせた服装になる様支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は陶器の家庭的な物を使い、ご自分の箸・湯呑・茶碗を使って頂く。盛り付けも美しく見える様に工夫し、熱い物は熱いうちに配膳する。	栄養士が作成した献立に基づき、職員が調理をしている。おやつ作りや行事食など、利用者の意見を取り入れ、喜ばれている。口から食べることを大切に、利用者1人ひとりに合わせた口腔ケアを毎食後に実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい様な形態を工夫している。水分摂取量の少ない方は、お茶以外の飲み物を時に飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合った歯ブラシを選定し毎食後口腔ケアを行う。入れ歯の仕上げ磨きはスタッフが援助。一週間に一回歯科衛生士の訪問有。口腔時の相談、アドバイスをもらいケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時にオシメ対応の方は、パンツで過ごせる様に支援する。日中はポータブルトイレではなくトイレで排泄出来る様に支援している。	排泄チェック表でパターンを把握し、訴えがない方も失敗がないようにトイレ誘導を実施している。トイレに座る時間が長い方には気を使わないよう、ポータブルトイレを使用するなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を作り、排便のリズムを確認している。必要に応じて服用にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番やお湯の温度にも配慮している。	週2回入浴できるよう支援している。曜日を決めてはいるが、本人の気分や状態に合わせて柔軟に対応している。入浴を拒否される方もおられ、声かけを工夫したり、体清拭で対応したりしている。	現在、週2回の入浴を基本としていますが、夏場には週3回に増やすなど、検討を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調節を小まめに行い、本人の希望に合わせている。自分で調節出来る方にはエアコンのリモコンを渡している。日中、自由に居室で休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には薬を手渡し、名前・日付・朝・昼・夕を声に出して誤薬を防ぐ。服薬時には飲み込みを確認し、飲み込みにくい場合はトロミ入りのお茶に混ぜるなど対応している。症状の変化の確認に努め異常があれば医師に連絡し指示を仰ぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きや洗濯干し、洗濯たたみをお願いしたり、食事前のいただきますの声掛けをお願いする。買い物に出掛けた時には好きな物を買える様に援助する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへの買い物、支払の支援を行う。気候の良い時期には、散歩に出かける。	気候のいい時には近くの遊歩道を散歩したり、ベランダで園芸や日光浴をしたりしている。家族の希望で週1回、リハビリの為通院を継続している方もおられる。月1回は買い物日を決め、出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には、見て実際に手に取って好きな物を選んでもらえる様援助する。支払ができる方はそばで見守り、支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかける援助をする。手紙、葉書を出す方は、発送の手続きを援助する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品を季節ごとに掲示したり壁には季節に合った壁画を掲示している。	各ユニットの間取りや雰囲気が違っている。フロアの狭いユニットもあるが、利用者は日中、フロアに集まり、穏やかに過ごしており、お互いの距離感が家庭的で身近に感じられる。行事写真や作品なども飾っている。	事業所に入ったときやトイレなど、少し匂いを感じました。何らかの対策を検討していただければと思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろげる様な場所に椅子を置いたり居室入口にのれんをつけて落ち着ける様に工夫している。入居者同士が落ち着いて過ごせる様に席を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使い慣れた物を使って頂いている。家族写真や好きなポスターを貼ったり、また自分で作った俳句や詩など居室に掲示している。	窓の位置や部屋の形、明るさなど、様々な居室がある。布団や枕など自宅で使っていたものを持って来てもらうようお願いしている。自分の部屋と感じられるように写真や自分の作品を飾ったり、暖簾などで目印をしたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ洗面所の場所が分かる様に張り紙をしたり家族、本人の了解のもと居室には本人の名前を書いて分かりやすくしている。		